

孟宗忌案内 — 今年は2月14日(日曜)です —

場所 熊本市黒髪町立田山登山口徳永直文学碑前(泰勝寺入口)
時間 1982年2月14日午後3時より
徳永会会費 一人500円 **会員年間会費** 一口1000円

開会挨拶、経過報告、作品朗読、献花、献酒、遺族代表挨拶、記念撮影、以上。

引き続き、熊本・徳永直の会総会並に徳永会も、文学碑横に設営されたテント内で行なう。午後4時半終了予定。

テントは熊大学生による設営、携帯用アロパン持ち込み、メザシ者一杯やりませう。
 乞多敬参加!



・第四回孟宗忌(昨年)には約20人参加、徳永直と徳永会サテウの中へご挨拶 ↑

第五回孟宗忌 近づくと

二月十四日 徳永直文学碑前

碑前の梅のほころびが早いようです。孟宗忌が今年もやってきました。徳永直が亡くなって二十四年が過ぎました。一九五八年(昭三三年)二月十五日に、まだ多くの仕事を残したまま、六十六歳

にも満ちない生涯を閉じたのでした。「静かなる山々」「一つの歴史」、「光をかかぐる人々」など未完の作品を残したまま。しかし、彼の作品は年毎に評価が高まり、彼の仕事の意味は、若い後輩たちに着実に受け継がれよう

熊本 徳永直の会会報

第7号
 熊本教育中村研究室 徳永直の会
 TEL. 6953) 44-2111

としています。熊本の地に徳永直の灯が確実にともし続けられていきます。そしてまた、その灯が徳永直の奥さん(トシ子)のふるさとであり、「日本人サトウ」「毒よねむれ」などの舞台でもある、宮城県登米町の佐藤三千夫記念会との連帯を生みだしています。最近(一九八一年)の北京

の外国文学出版社から出された「日本短篇小説選」には、「眼」と「彼岸」が、「日本当代小説選」には、「村に来た文工隊」が収録されています。また中国の小学校の教科書には「馬」が使われています。

徳永直の作品の教材化は、熊本でも日本でももっともっと進めねばなりません。徳永直文学碑のもつ意味の本末の姿を見失なぬためには、孟宗忌に集まりませう。命日は二月十五日ですが、より多くの人が集まれるようにと孟宗忌はその前日の日曜日に催すことになりました。だから今年も二月十四日なのです。

出版 新日本文庫
 「毒よねむれ・日本人サトウ」 徳永直 520円

事務局 日誌

- 二月十八日、永田日出夫氏より、文学碑背面に刻ん
- でしるうことになった發起人代表設計者、建設者、土地提供者の名の彫刻作業が終了と電話。費用は寄附するとのこと。大変ありがとうございます。
- 一月十二日、発注した会用の封筒を高松橋三氏より納品。
- 一月十五日、第五回孟宗忌打合せと新年会兼ねて事務局会を、新入会員の坪井五丁目、すまじし、と開く。会費四千円、残金が四、七、〇〇円。このため、直の会会計にぶち込む。
- 年賀状ありかとういきました。
- 東京の五十嵐元三郎さん、宮城の金野文彦さん。
- 事務局担当の五氏より会費徴集、カンパはい七千九百円(はやくし)納入。大変お苦勞さん。

熊本・徳永直の会 振替口座番号は熊本四一四九八です。
 熊本市黒髪二丁目四〇一 熊本大学教育学部中村教室